

平成 26 年 2 月 23 日 (日) 施行

第 136 回 日商簿記検定試験 3 級 解説

第 1 問

1. 引き落とされた ¥30,000 は家事消費のため水道光熱費として処理することはできない。
家事消費分は資本金勘定を減額する。
2. 売却時に未収金として処理されていた代金の回収。問題文中の預金の種類に注意。
3. 約束手形の裏書譲渡は受取手形勘定を減額する。
購入代価+引取運賃が仕入代金となる。
4. 貸付にあたり、約束手形を受け取っているので手形貸付金勘定を用いる。
5. 購入金額が当座預金残高を超過しているため、当座借越契約に基づき、超過分 ¥3,000 が当座借越勘定で処理される。その際、借越限度額 ¥40,000 の範囲内であることを確認すること。

第 2 問

1 月 5 日

当座預金出納帳 → 茨城商店への売上代金 ¥100,000 入金

受取手形記入帳 → 茨城商店への売上代金として同店振出の約束手形 ¥150,000 受け取り

(借)	当 座 預 金	100,000	(貸)	売 上	100,000
	受 取 手 形	150,000		売 上	150,000

1 月 10 日

当座預金出納帳 → 東京商店からの仕入に関する引取費用 ¥5,000 の支払い

買掛金元帳(東京商店) → 東京商店から ¥300,000 の掛仕入

(借)	仕 入	5,000	(貸)	当 座 預 金	5,000
	仕 入	300,000		買 掛 金	300,000

1 月 20 日

当座預金出納帳 → 千葉商店への掛代金 ¥100,000 の支払い

受取手形記入帳「てん末」欄 → 1 月 5 日受取の ¥150,000 の約束手形を裏書譲渡

買掛金元帳(千葉商店) → 約束手形の裏書譲渡と小切手振出による買掛金の支払い

(借)	買 掛 金	100,000	(貸)	当 座 預 金	100,000
	買 掛 金	150,000		受 取 手 形	150,000

1 月 31 日

当座預金出納帳 → 手形割引による ¥99,000 の入金

直前の当座預金残高が貸方残 ¥55,000 (当座借越)

受取手形記入帳「てん末」欄 → 1 月 15 日受取の ¥100,000 の為替手形を割引

(借)	当 座 借 越	55,000	(貸)	受 取 手 形	100,000
	当 座 預 金	44,000			
	手 形 売 却 損	1,000			

第3問

1. 商品売買に係わる手付金の授受

(1)	(借) 前払金	30,000	(貸) 当座預金	30,000
(2)	(借) 当座預金	40,000	(貸) 前受金	40,000

2. 商品の仕入

(1)	(借) 仕入	71,000	(貸) 当座預金	71,000
(2)	(借) 仕入	187,000	(貸) 買掛金	187,000
(3)	(借) 仕入	54,000	(貸) 受取手形	54,000
(4)	(借) 仕入	39,000	(貸) 支払手形	39,000
(5)	(借) 仕入	21,000	(貸) 前払金	21,000
(6)	(借) 買掛金	10,000	(貸) 仕入	10,000

3. 商品の売上

(1)	(借) 現金	38,000	(貸) 売上	38,000
(2)	(借) 売掛金	296,000	(貸) 売上	296,000
(3)	(借) 受取手形	75,000	(貸) 売上	75,000
(4)	(借) 売上	14,000	(貸) 売掛金	14,000

4. 掛け代金の決済

(1)	(借) 買掛金	80,000	(貸) 当座預金	80,000
(2)	(借) 買掛金	92,000	(貸) 支払手形	92,000
(3)	(借) 買掛金	70,000	(貸) 売掛金	70,000
(4)	(借) 当座預金	110,000	(貸) 売掛金	110,000
(5)	(借) 受取手形	105,000	(貸) 売掛金	105,000

5. 手形の決済

(1)	(借) 支払手形	77,000	(貸) 当座預金	77,000
(2)	(借) 当座預金	156,000	(貸) 受取手形	156,000

6. 有価証券の売買

(1)	(借) 売買目的有価証券	42,000	(貸) 当座預金	42,000
(2)	(借) 当座預金	62,000	(貸) 売買目的有価証券	58,000
			有価証券売却益	4,000

7. その他の取引

(1)	(借) 給料	189,000	(貸) 当座預金	189,000
(2)	(借) 現金	60,000	(貸) 当座預金	60,000
(3)	(借) 支払家賃	65,000	(貸) 現金	65,000
(4)	(借) 貸倒引当金	20,000	(貸) 売掛金	20,000

第4問

- 直接法は建物の減価償却額を建物勘定の貸方に記入する（建物勘定を直接減額する）。
- 貸倒引当金は評価性引当金であり、評価勘定ともいわれる。
- 土地を使用できるように支払った費用は土地勘定に含める。

第5問

決算整理事項

1. 現金過不足の処理

帳簿残高 ¥588,000 に対して実際有高は ¥580,000 → ¥8,000 不足 (雑損)

(借) 雑 損	8,000	(貸) 現 金	8,000
---------	-------	---------	-------

2. 有価証券の売却

(売却価額@ ¥2,400 - 帳簿価額@ ¥2,000) × 100 株 = ¥40,000 (売却益)

(借) 当 座 預 金	240,000	(貸) 売買目的有価証券	200,000
		有価証券売却益	40,000

3. 仮受金の処理

(借) 売 掛 金	50,000	(貸) 仮 受 金	50,000
-----------	--------	-----------	--------

4. 貸倒引当金の設定

売掛金残高は、残高試算表と決算整理事項 3 より ¥650,000 - ¥50,000 = ¥600,000

(¥360,000 + ¥600,000) × 3% = ¥28,800

残高試算表の貸倒引当金は ¥25,000 であるから繰入額は ¥28,800 - ¥25,000 = ¥3,800

(借) 貸倒引当金繰入	3,800	(貸) 貸 倒 引 当 金	3,800
-------------	-------	---------------	-------

5. 売上原価の算定

期首商品棚卸高は残高試算表より ¥450,000

(借) 仕 入	450,000	(貸) 繰 越 商 品	450,000
繰 越 商 品	400,000	仕 入	400,000

6. 売買目的有価証券の評価替え

決算整理事項 2 より、残存する売買目的有価証券の帳簿価額は 100 株

(時価@ ¥2,370 - 帳簿価額@ ¥2,000) × 100 株 = ¥37,000

(借) 売買目的有価証券	37,000	(貸) 有価証券評価益	37,000
--------------	--------	-------------	--------

7. 備品の減価償却

残存価格ゼロ、耐用年数 10 年より、備品 ¥500,000 / 10 年 = ¥50,000

(借) 減 価 償 却 費	50,000	(貸) 備品減価償却累計額	50,000
---------------	--------	---------------	--------

8. 家賃の繰延

支払家賃 ¥84,000 のうち 1 月～3 月分までの 3 か月分が前払分である

¥84,000 × (3 カ月 / 12 カ月) = ¥21,000

(借) 前 払 家 賃	21,000	(貸) 支 払 家 賃	21,000
-------------	--------	-------------	--------

9. 利息の見越

10 月 1 日から 12 月 31 日までの 3 か月分を見越計上する。

¥2,000,000 × 4.2% × (3 カ月 / 12 カ月) = ¥21,000

(借) 支 払 利 息	21,000	(貸) 未 払 利 息	21,000
-------------	--------	-------------	--------